

資料紹介

井上哲次郎『巽軒日記―明治四四年―』

村上 こそえ
森本 祥子

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五―一九四四年）の日記『巽軒日記』の明治四四年分について引続き紹介したい。但し、残念ながら上半期分は所蔵がないため（寄贈時に欠冊）、下半期分のみを翻刻となる。なお、凡例については第31号で述べていることから割愛する。

巽軒日記

明治四十四年（西暦一九一〇） 下半期〕

七月

一日、午前、勉強、○講義に高等師範に赴く、○齋藤壽七、富田貞松より来状、○不在中伊藤吉之助、原稿を携来る、○午后、英爾を三井銀行に遣はす、○西山栄久より宣紙を送来る、○浦谷熊吉来談す、○荒浪市平来る、乃ち談話を筆記せしむ、○校正を博文館に送る、○答案を読む、○「古事類苑」（植物部）を送来る、○夜、「東亜の光」（六の七）成る、○岸田繁次郎来談す、○答案を読む、

○黒川眞道より校正来る、

二日、午前、山岸光宣、豊田臻、堀謙徳、瓜生喜三郎、小塩健吉来訪す、○答案を読む、○午后、校正を博文館に送る、岩田僊太郎、印税を携来る、○答案を読む、○齋藤省三妻愛子、豊岡茂夫来訪す、○夜、「教育勅語と国民教育」中外日報に出づ、○三宅氏の原稿を文学協会に送る、○原田義藏、及び森村市左衛門より来状、○答案を読む、○東敬治来訪す、○瓜生喜三郎より来状、○此日、葛岡敬雄より来状、

三日、午前、答案を読了る、○浦谷熊吉来談す、○漢籍国字解全書（左伝下）を送来る、○午后、文科大学の使者来る、乃ち之に修了試験の点数を付与す、○哲学字彙の校正をなす、○「教育勅語と国民教育」中外日報に出づ、○田中義能来訪す、○夜、東亜協会の臨時会に学士会事務所に赴く、○尾崎行雄、文科大学、文学協会、目黒書店等より来状、○目黒書店より原田義藏の原稿を送来る、○教科書会より書類を送来る、○霖雨、○此日、森志げ子、東亜協会々員となる、

- 四日、午前、哲学字彙の校正をなす、○「読書と修養」日本青年に出づ、○伊藤吉之助来訪す、○書状を大里猪熊に送る、○午后、哲学字彙の校正をなす、○校正を丸善に送る、○伊藤吉之助の原稿を閲す、○「近世文学叢書」を読む、○夜、原稿を同文館に送る、○大野太衛より来状、○文科大学よりコーツの報告書を送来る、○校正を丸善に送る、○書状を名兒耶六都に送る、
- 五日、午前、木村榮授賞式に帝国学士院に赴く、鍋島直大、後藤新平、渡辺千秋、小松原英太郎、花房義賢等と会見す、○午后、文科大学の会議に山上御殿に赴く、○不在中西山栄久来訪す、○「教育勅語と国民教育」中外日報に出づ、○塚原政次、原田義藏より来状、○小谷重来訪す、○黒川眞道より校正来る、○大学本部の使者来る、○夜、校正を博文館に送る、○哲学字彙の校正をなす、
- 六日、午前、森良三郎、浦谷熊吉来談す、○宮内省に赴き、「教育と修養」四部を献納す、○高崎正風を訪ふ、○午后、宗宮信行来訪す、○東京市歌委員総会に東京市役所に赴く、○田所美治及び富田定松より来状、○夜、文部省より年表を送来る、○教科書会より書類来る、○此日、黒川眞道より校正来る、○門の建直し、殆ど成る、○吉田修夫より袱紗を送来る、
- 七日、午前、宇野助多郎来る、乃ち教育上の事を談話す、○校正を博文館及び丸善に送る、○伊藤吉之助、原稿を携来る、○吉田雪子来談す、○午后、電話使用料拾六円五拾銭を郵便局に納む、○黒川眞道より校正を送来る、○深作安文来訪す、○教科書会に文部省に赴く、○不在中木山熊次郎、池辺義象来訪す、○田村又六及び文科大学より来状、○校正を博文館に送る、○日本弘道会より速記を送来る、○夜、岩倉鉄道学校に赴き、生徒の為に修養談をなす、○富永謙治、竹村勘悉、竹川貞銳等と学校内に会見す、
- 八日、午前、八木光貫、富田貞松より絵葉書来る、○門坂塀等悉く成る、○縫子、櫻井ちか子宅に赴く、○磯江潤より商品券を送来る、○教授会に第二学生集会所に赴く、○午后、木村正辞を入谷に訪うて古書を観る、○村木維夫より絵葉書来る、○小谷政祐、東京高等師範及び教科書会より来状、○若守義孝来訪す、○夜、校正を博文館に送る、○原稿を同文館に送る、○日本弘道会の速記を訂正す、
- 九日、午前、岩田僊太郎、富田貞松より来状、○丸善より校正来る、○浦谷熊吉、補永茂助、藤野房次郎来訪す、○安田勝藏、富永益三、古野俊三来訪す、有故不遇、○校正を丸善に送る、○書状を岩田僊太郎に送る、○午后、原稿を同文館に送る、○速記を訂正して之を日本弘道会に送る、○文学協会の速記を訂正す、○夜、速記を訂正して之を文学協会に送る、○同文館より校正来る、○校正を同文館に送る、○此日、電車は東京市営に決す、
- 十日、午前、腹痛を患ふ、○深作安文来訪す、○婦人画報社より浴衣一反と御礼とを送来る、○小田切磐太郎より来状、○黒川眞道より校正来る、○午后、半田孝海、東亜協会々員となる、○藤井健治郎、木場了本来訪す、○書状を小田切磐太郎に送る、○校正を博文館に送る、○夜、吉田静致より来状、○教科書会より書類来る、
- 十一日、午前、中島萬次郎より原稿を送来る、○大学の卒業式に赴く、○岡田朝太郎、二木謙三、三宅鑽一、古市公威等と会見す、○午后、教科書会より書類来る、○校正を丸善に送る、○同文館より

文房具を送来る、○麻生貞樹より来状、○浦谷熊吉来談す、○高崎正風より来状、○夜、校正を丸善に送る、○書状を富山房に送る、○嘉納治五郎より来状、

十二日、午前、岸田繁次郎、林訥、中島萬次郎、辻本卯藏、保科孝

一、黒川眞道来訪す、○原田義藏より来状、○辻本卯藏より菓子箱、小林義則より巻煙草を送来る、○午后、宮内省より使者来る、

○弘道館より使者来る、乃ち之に原田義藏の原稿を付与す、○安田勝藏来る、乃ち之をして談話を筆記せしむ、○富山房よりビール壺打、大倉書店よりビール二箱、隆文館よりビール壺打、文楽閣よりサイダー壺箱を送来る、○書状を弘道館に送る、○文科大学の使者来る、乃ち之に Thomas Thought Transference を付与す、○英爾を姉崎正治宅に遣はす、○夜、宮崎彦磨来訪す、○中島萬次郎の原稿を読む、○中島徳藏より速記を送来る、

十三日、午前、六盟館よりハンケチ式打を送来る、○英爾を修養団に遣はす、○浦谷熊吉、中島萬次郎、有馬祐政来訪す、○英爾を史料編纂掛に遣はし、書籍を返納せしむ、○蓮沼門三より来状、○午后、徳育談話会に山上御殿に赴く、来会者、約二十余名、○夜、十時頃帰宅、○原田助、鎌田栄吉より来状、○此日、林平次郎よりビール半打を送来る、○笹川老母来訪す、

十四日、午前、川越壯介及び新渡戸稲造より来状、○佐野保太郎、安藤孝三、大佛衛、小田龍太、信樂隨縁、齋藤勇、岡本久八、上西半三郎、西村大串、東亜協会々員となる、○望月信亨、大村西崖、浦谷熊吉、岸田繁次郎、植田わか子来訪す、○村田五郎より鯉節、清水満之助より砂糖壺樽を送来る、○森村市左衛門及び三輪田眞佐子、東亜協会賛助員となる、○写真を小田切磐太郎に送る、○

英爾を浦谷及び岸田宅に遣はす、○午后、伊沢修二より浴衣と菓子、浅倉屋より菓子を送来る、○丸善より校正来る、○校正を丸善に送る、○贈物吉田、永板、等に遣はす、○夜、文科大學懇親会に植物園に赴く、○文部省及び井上通泰等より来状、○小野福平より「小野催眠学」を送来る、○此日、小谷重来訪す、○東亜協会の勧誘状拾式通を発送す、○大雷雨、

十五日、午前、英爾を文部省に遣はし、検定試験の問題を送る、○森良三郎、原平吉来談す、○大日本青年会より使者来る、○東亜協会勧誘書八通を発送す、○午后、英爾を三井銀行に遣はす、○深作安文来談す、○杉山直喜来る、乃ち之をして談話を速記せしむ、○渡部董之介より来状、○望月信亨、仏教辞典第二冊を携来る、○哲学科卒業生の謝恩会に山上御殿に赴く、○夜、八時頃帰宅、○速記を訂正す、○此日、砂糖を眞浄寺に、浴衣を甘木に送る、○姉崎袖子来訪す、

十六日、午前、文明協会より「最近埃及」(上)を送来る、○三省堂より来状、○若木廣良、岩橋遵成、伊藤吉之助来訪す、○午后、「国民道徳叢書」の序を作る、○夜、富山県教育会及び深作安文より来状、○速記を訂正す、○杉山直喜より速記を送来る、

十七日、午前、黒川眞道、有馬祐政、浦谷熊吉及び博文館員一名、外に宮崎神苑会員一名来訪す、○菊池俊諦より来状、○桑門典、東亜協会々員となる、○午后、「国民道徳叢書」の序文を博文館に送る、○蠣瀬彦藏来訪す、○教科書会に文部省に赴く、○岩倉鏡道学校に赴き、修養談をなす、○中島萬次郎より原稿を送来る、○不在中相馬由也、藤澤清造来訪す、○夜、速記を訂正す、○温度漸く高し、

十八日、午前、相馬由也、浦谷熊吉、宗宮信行、齋藤庸一郎、林訶来訪す、○文采閣より「釈迦牟尼伝」を送来る、○安田勝藏より速記を送来る、○水島耕一郎来談す、○午后、山崎洋服店員工藤政治、仮縫を携来る、○木場了本、榊田秀乗、勝水淳行来訪す、○杉山直喜の速記を訂正して之を活版所に送る、○縫子、吉田熊次宅に赴く、○夜、英爾を浦谷宅に遣はす、○書状を深作安文、浦谷熊吉、及び富山県教育会に送る、○速記を訂正す、十九日、午前、岸田繁次郎、四宮兼之来訪す、○宮内省に赴き、「増訂釈迦牟尼伝」を献納す、○不在中奈良静馬來訪す、○相馬由也より談話筆記を送来る、○望月信亨、青山惇揚、香川静爾、千葉正一、和田徹成、石井忠純、柳沼介、榊田秀乗、津田清三、原田稔甫、高木敏雄、土居通豫、入澤宗壽、吉武眞貫、北島正太郎、津金馨、東亜協会々員となる、○速記の訂正を安田勝藏に金港堂に送る、○筆記を訂正す、○午后、尾上八郎来訪す、○教科書会に文部省に赴く、○同文館より原稿料を送来る、○丸善より校正を送来る、○夜、校正を丸善に送る、○筆記の訂正を反省社に送る、○丁酉倫理会の速記を訂正す、○博文館より奥附を送来る、二十日、午前、深作安文、岩橋遵成、浦谷熊吉、岸田繁次郎、信樂隨縁、古城貞吉、吉田熊次来訪す、○日清印刷会社より口絵を送来る、○「国民道德叢書」二千部の奥附を博文館に送る、○池田菊苗、須貝太郎、石川泰往、犬塚一郎、北澤貞造、東亜協会々員となる、○教科書会より来状、○謝恩会の写真来る、○午后、黒川眞道より校正来る、○校正を博文館に送る、○「東亜の光」口絵を活版所に送る、○文科大学より来状、○吉田雪子来る、○丸善より校正来る、○運動に巢鴨に赴く、○遠藤隆吉を巢鴨に訪ふ、

○不在中小尾範治来訪す、○夜、書状を小田切磐太郎及び田部井勝藏に送る、○哲学字彙の校正をなす、廿一日、午前、藤井種太郎、山本良吉の紹介状を携来る、○哲学字彙の校正をなす、○小尾範治来訪す、○午后、教科用図書委員会に文部省に赴く、○文部省及び宮内省より来状、○世木伊水より余憤録を送来る、○岸田繁次郎及び堀謙徳より来状、○三重県視学市川泰、東亜協会々員となる、○夜、哲学字彙の校正をなす、廿二日、午前、黒川眞道より校正来る、○校正を博文館に送る、○浦谷熊吉、目黒甚七来訪す、○丸善より書籍数種を送来る、○書状を菊池俊諦に送る、○三浦守治より論文を送来る、○午后、書状を川越壯介及び塚原政次に送る、○博文館より校正を送来る、○村澤喜代人、吉田雪子来訪す、○辻本卯藏より来状、○運動に植物園附近に出づ、○三省堂の校正を覽る、○教科書会より書類来る、○夜、引続き三省堂の校正を覽る、○宮崎神苑会より来状、廿三日、午前、堀謙徳、黒川眞道、補永茂助、武内紫明、喜多見佐喜来訪す、○深作安文より原稿来る、○原稿を三省堂に送る、○黒板勝美より原稿来る、○午后、中島泰藏、中村長、中島萬次郎来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を筆記せしむ、○吉田熊次より絵葉書来る、○大倉書店より末広二本を送来る、○夜、校正を丸善と三省堂に送る、廿四日、午前、小豆澤英男、浦谷熊吉、北島正太郎、岸田繁次郎、来訪す、○山内佐太郎より来状、○谷内正順、龍居松之助、本多日生、東亜協会々員となる、○博文館の使者来る、○午后、杉山直喜より速記を送来る、○武内紫明来る、乃ち談話を筆記せしむ、○菊池俊諦、中熊直喜より来状、○江部淳夫より絵葉書来る、○

三省堂より「横」〔模〕「範英和辞典」二部を送来る、○若松緑の筆記を訂正す、○岡村勇二及び喜多見佐喜より来状、○鍵谷徳三郎、ビール半打を携来る、○加藤玄智、間千代、得能文妻来訪す、○夜、遠藤夏子来訪す、○筆記を訂正して之を若松緑に送る、○書状を比佐祐次郎に送る、○山内佐太郎より書類を送来る、

廿五日、午前、文部省中等教員講習会開会式に東京音楽学校に赴く、○講師総代として演説をなす、来会者約八百余名、○佐伯俊二より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○文学士廣瀬文豪、東亜協会々員となる、○午后、研究、○文部省より書類来る、○秋月胤継来訪す、○豪雨、○岩田僊太郎より大タヲルを送来る、○夜、吉田熊次より絵葉書来る、○渡部董之介より来状、○「教界春秋」を草す、○暴風雨、

廿六日、午前、石原即聞より来状、○講習会に大学に赴く、聴講者約三百名、○安江豊太郎と大学に会见す、○午后、「教界春秋」を草し了りて之を日清印刷会社に送る、○書状を岡村勇二に送る、○坪井九馬三及び箕作元八を訪ふ、○堀松藏、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉来談す、○夜、休養、○此日、目黒書店より菓子箱、法貴慶次郎より三盆白を送来る、

廿七日、午前、森村市左衛門、前田捨松、坪井九馬三等より来状、○亀井忠一より菓子を送来る、○講義に講習会に赴く、○不在中吉田賢龍、上西半三郎来訪す、○縫子、益之進を携へて賀古鶴所宅に赴く、○午后、岸田繁次郎来談す、○角田松壽来る、乃ち談話を筆記せしむ、○野村洋三、東亜協会々員となる、○藤井種太郎、戒能義重より来状、○夜、中條惟隆来訪す、

廿八日、午前、講義に大学に赴く、○松宮助之丞、大学に来訪す、

○不在中佐藤保一、川田鏡弥来訪す、○角田松壽より筆記を送来る、○深作安文来訪す、○午后、荻原信井子来訪す、○書状を岩惣本店に送る、○英爾を浦谷熊吉宅に遣はす、○佐伯俊二より来状、○加藤孫平、長尾景治、浦谷熊吉来訪す、○夜、箕作元八、山内佐太郎より来状、○書状を田部井勝藏、森村市左衛門に送る、○益之進喉頭加答兒稍々軽快、

廿九日、午前、講義に講習会に赴く、○木村繁四郎大学に来訪す、○宅地租七円五拾八錢五厘を区役所に納む、○松山直藏より来状、○国書刊行会より「事実文編」(第四)及び「黒川眞頼全集」(第五)を送来る、○午后、堀謙徳、岸田繁次郎、岩田僊太郎来訪す、○今井恒郎、石月無外、東亜協会々員となる、○英爾を東海銀行に遣はす、○芝辻正晴より来状、○博品館に赴く、○葛岡敬雄来訪す、○夜、伊藤吉之助来訪す、

三十日、午前、講習会に大学に赴く、○小豆澤英男、玉井廣平(文部省囑託)、前田楚樹、滋賀貞、松扉得悟、野田幾三郎、相澤英二郎、鶴清氣、堀松藏、小林盈、堀重利、倉石次三郎、弘丑彦、新保翼等と大学に会见す、○不在中山内晋郷来訪す、○午后、三、四○宣光、正勝を拉して新橋を出発す、浦谷、岸田、及び英爾送来る、○此日、増田準二、東亜協会々員となる、○太田秀穂、北島正太郎来訪す、○吉田豊、煙草志箱を携来る、

卅一日、午后、三、四○宮島着、直に岩惣に赴く、○此日、留守宅に紀平正美来訪す、○水島耕一郎、「森林生活」を携来る、

八月

一日、午前、本社に参詣し、十一時出発、○午后、三時頃富海に到着し、直に河杉旅館に投宿す、○山本義一、来栖守衛、停車場に

来迎す、○水野尚一、来訪す、○夜、書状を留守宅に送る、○田中喜市来訪す、○留守宅に区役所員来る、

二日、午前、三田尻に赴き、講義を周陽中学校に開く、聴衆七百人を踰ゆ、○小田切磐太郎、武光信雄、米澤菊五郎、香川政一、藤井牛之助、尾中郁太、田中新吾、神徳一人、池田正介、長野範亮、近藤留藏、前原助四郎等と会见す、○田部井勝藏、松村正一より来状、○午后、林勃爾より来状、○夜、速記を訂正す、○書状を井上健兒に送る、○留守宅に里村勝次郎来訪す、○新保巽、無名異焼を携へて来訪す、

三日、午前、講義に講習会に赴く、○西原為吉、信國顕治、細江省吾、原田義藏、重富亀一等と会见す、○浦谷より来状、○午后、阿弥陀寺に遊ぶ、○夜、原田義藏及び串田澄来訪す、

四日、午前、講義に講習会に赴く、○午后、佐波郡教育会に莅み、「三宝の説」を演述す、○「東亜の光」(六の八)来る、○喜多見佐喜より来状、○夜、新聞を読む、○此日、晚成処より「勅語教本」一百部の奥附を送来る、乃ち直に送り返す、○野村望東尼の墓に謁す、

五日、午前、講義に講習会に赴く、○午后、松崎神社に謁し、社務所に休憩す、○松崎小学校講堂に協賛会茶話会に赴く、○藤岡兵一、田子一民等と会见す、○此日、岡村勇二、梶村勝太郎、菊池俊諦、中西長次郎より来状、○留守宅に山岸光宣来訪す、○宮内省より書状来る、

六日、午前、講習会に赴く、○午后、県教育会に莅み、「修養上より見れる孔子」を演述す、○仙波太郎、渡辺知事、池田正介、北條時敬、梅田磐翠、御園生秀太郎、米原鶴太、佐藤馬

太、原要二、野原秋草、都野知若等と会见す、○夜、菊亭に赴く、○宣光正勝、菊亭に来る、

七日、午前、講義に講習会に赴く、○難波作之進と会见す、○午后、田中喜市及び宇多村新一郎と共に琴音滝を見る、○渡辺知事より「チクワ」を送来る、○書状を留守宅及び源円に送る、○齋藤金造来訪す、

八日、午前、講義に講習会に赴く、○午后、五、三一富海出発、見送人は渡辺融、武光信雄等十数名、○留守宅に高木武来訪す、

九日、午前、大阪市を経て、奈良市に赴き、菊水に休憩し、尋いで公会堂に於て「我、国民道徳の特色に就いて」演述す、○夜、和歌山市を経て和歌の浦に出で、海辺の楼に休憩す、

十日、午前、二時頃、新高知丸に乗り、午後、二時過ぎ申本に上陸し、海月に休憩す、尋いで人力車にて古座に赴き、今夜楼に投宿す、

十一日、午前、劇場に講演す、○午后、那智に赴き、観瀑亭に宿す、○齋藤拙堂の南遊志を読む、

十二日、午前、那智の滝を觀て、古座に帰る、○午后、講演をなす、○夜、古座川に船を浮べて遊ぶ、

十三日、午前、講演をなす、尋いで婦人女子の為に寺院に於て演説す、○午后、申本に赴く、○夜、九時頃新高知丸に乗船す、○此日、留守宅に磯辺弥一郎よりサイター壱打を送来る、

十四日、午後、一時、和歌の浦に着す、乃ち海辺の楼に休憩す、○高瀬武次郎来訪す、○五時の汽車にて大阪難波に出で、花屋に投宿す、○此日、留守宅に兒玉実徳、ハンケケ壱打を携へて来訪す、

十五日、午前、八、三〇大阪を出発す、○二、〇〇米原に到着、○宣光正勝を東京に帰す、○午后、八、二七金沢市に到着、大浦屋に

投宿す、

十六日、午前、九時、講習会に師範学校に赴き、講義を開く、○午後、速記を訂正す、

十七日、午前、講義に講習会に赴く、○午後、原稿を浦谷に送る、○池善に赴く、

十八日、午前、講義に講習会に赴く、○午後、二、三四金沢市を出発し、同四、二二富山市に到着、直に富山ホテルに投宿す、○此日、留守宅に山田準来訪す、

十九日、午前、講義に講習会に赴く、○午後、岩瀬町に赴き、小学校に於て一場の演説をなす、聴衆約四五百人、

二十日、午前、講義に講習会に赴く、○午後、高岡市に赴き、射水神社に謁し、尋いで青年団の為に中学校に於て「三宝の説」を演述す、○此日、留守宅に博文館より「国民道徳叢書」の印税を送る、

廿一日、午前、講義に講習会に赴く、○午後、本庄に赴き、小学校に於て一場の修養談をなす、聴衆約三四百人、○此日、留守宅に大野太衛来訪す、

廿二日、午前、講義に講習会に赴く、○午後、「教界春秋」を草し、之を浦谷に送る、○此日、留守宅に村上龍英、葛素麵壺箱を携へて来訪す、

廿三日、午前、講義に講習会に赴く、○午後、神職会の為に県会議事堂に演述す、○午后、三、四四富山市を出発す、○小松の停車場にて深作安文と会見す、○夜、一二、三三米原に到着、井筒屋に投宿す、

廿四日、午前、七、三五米原を出発し、同一、五九蒲郡に到着、直

に健碧館に投宿す、○縫子、春枝、益之進、高子を拉して十九日以来此にあり、○此日、清子亦東京より来着、

廿五日、午前、豊橋市に赴き、講義を講習会に開く、○午後、蒲郡の教育会に小学校に赴き、一場の演説をなす、題して「人生と修養」と云ふ、筆記は廿六日以後の新愛知に連載せり、(頁下部に「蒲郡講演会」の新聞記事切抜貼付(記事に「新愛知」と朱書きあり))

廿六日、午前、講義に豊橋市に赴く、○午後、新聞を読む、

廿七日、午前、講義に豊橋市に赴く、○午後、豊橋市教育会に於て「人生何を以て貴しとするか」を演述す、聴衆約六百人、○此日、留守宅に尾木原勝任、西山栄久、宇津木多一三来訪す、

廿八日、午前、講義に豊橋市に赴く、○午後、田原に赴き、渡辺畢山の遺物遺墨及び遺蹟を觀、畢りて小学校に於て一場の演説をなす、○夜、金仙宗諱、菓子箱を携へて来訪す、○此日、妻子、舟遊をなす、○武士道叢書下巻五百部の奥附を博文館に付与す、

廿九日、午前、妻子携へて豊橋市に赴き、講義を結了す、○妻子は豊川稲荷に参詣し、岡田屋に休憩す、○午後、二、一〇豊橋市を出発し、夜、八、三〇新橋に到着す、

此夏講習時間六十七時間、演説拾二回、○旅行中桑原隲藏、佐伯俊二、松村介石、林勃爾、小田切磐太郎、松村正一、田村又六、坂井敬義、杉浦鎮次郎、濱田健次郎、田中喜市、松宮助之丞、川上親晴、梶村勝太郎、喜多見佐喜、菊池俊諦、林訥、池田正介、小林一郎内、井上ひで、福田森三郎、田中義能、大江文城、風見謙次郎、岡村勇二、毎田周次郎、蓮沼門三、大田黒作次郎、九鬼隆一、小島政吉、補永茂助、安藤季雄、中西長次郎、田村喜作、

大浦屋喜代、深作安文、松平頼壽、文科大学、吉田豊、松田孫治郎、等より来状、○会見者は、山口県にて知事渡辺融、事務官藤岡兵一、信國顕治、原田義純、神徳一人、高等女学校長米沢菊五郎、佐波郡書記串田澄、武光信雄、都濃郡長田子一民、御園生秀太郎、梅田馨翠、師範教諭重富亀一、富海村長小野田陸馬、野原秋草、難波作之進、事務官小田切馨太郎、県視学米原鶴太、尾中郁太、藤井牛之助、香川政一、吉敷郡長原要二、徳山中学校校長佐藤馬太、郡視学都野知若、県視学来栖守衛、郡視学前原助四郎、周陽中学校長山本義一、近藤留藏、水野尚一、防府町長長野範亮、池田正介、田中新吾、細江省吾、齋藤秋水、郡視学西原為吉等、○奈良県にては若林知事、須藤求馬、藤山豊、吉川万次郎、事務官日比重雅、県視学片山元造、永井道明、草川俊造、学務課長清水篤太郎、野尻精一等、和歌山県にては久保嘉七、西向村長堀峯藏、県属田村和夫、山田稔、須藤丑彦、県属三宅恒永、事務官間野一、浦和彦七、高池町長遠藤清三郎、粉河中学校長吉村源之助、須川政太郎、小島茂徳、郡書記中根七郎、事務官相良歩、助役宮本啓三郎、大阪時事記者矢野政雄、太田村長小倉耕等、○石川県にては李家知事、吉村寅太郎、県視学毎田周次郎、事務官次田七五三五郎、小松倍一、県視学瓜生余所吉、師範教諭佐藤修一、高女長土師雙他郎、農学校長山中良治、中学長廣戸保、育成院長佐藤文太郎、石川太郎次、佐伯俊二、師範長中山文雄、教諭松宮助之丞、四高教授駒井徳太郎、管村良吉、菊池俊諦、実科女長鈴木重尚、県属二見弘造、商業長松村吉則、赤井直好、阿部莊二、白井弘、郡視学加藤政吉、実科女長那波房太郎、林端等、○富山県にては事務官永井金次郎、郡視学佐伯有平、同石野敏太郎、稻本保太郎、郡長高

松覚太郎、石黒準太郎、大島栄、米山健造、赤津正親、梅林寺勝三、犬島宗左衛門、今枝甚吾、石坂豊一、坂井敬義、志田義秀、山内貞之、蟹江操子、事務官本間利雄、知事濱田恒之助、平尾鏡三郎、金子長吾、後藤久義、栗山健作、村林正、二宮正義、山田敏一、鶴見越山、県視学傍田弥三郎、黒河内興四郎、県視学早苗西藏、工芸長伊藤宜良、金岡清彦、森田宗太郎、富田健助、小杉熙、等、○豊橋市にては市長大口喜六〔大口喜六、朱書き〕、助役永野武三、志水代次郎、郡長木原勝太郎、山本右太郎、郡視学内山新、金仙宗諱、杉浦鎮次郎、岩上勘藏、兒島温、三好慶作、山内元平、郡長島内諱、同村上金一郎、同内田勝起、梶村勝太郎、大竹直治、鈴木宇良安、千賀林松、伊奈森太郎、山内莊平等、○講習員は総計約二千六百人、演説聴衆は約六千人、〔頁上部に「講習時間、六七、演説十二回、約二五時間、」と書込み〕

三十日、午前、紀平正美来訪す、○午后、浦谷熊吉来談す、○「東亜の光」〔六の九〕成る、○三井銀行に赴く、○夜、大江文城、長野範亮より来状、○此日、内閣交迭、

卅一日、午前、森良三郎来談す、○午后、黒川眞道、有馬祐来訪す、○健碧館より来状、○夜、矢野文雄より使者来る、○吉田夫妻来談す、

九月

一日、午前、英爾を電灯会社に遣はす、○大竹直治より絵葉書来る、○新聞雑誌類を読む、○午后、富山県教育会、教員検定委員会及び辻本卯藏より来状、○運動に出づ、○常盤大定より蝸三箇を送来る、○林勃爾及び村上静人来訪す、○雑誌類を読む、○夜、龍溪随筆を読む、

- 二日、午前、池善より「可觀小説」十八冊を送来る、○浦谷熊吉来談す、○英爾を東海銀行に遣はす、○午后、林高美、姉崎益子来談す、○富山県講習員より火鉢二箇、高岡教育会より花瓶壹箇を送来る、○「青年修養談」石川新聞に連載せらる、○「哲学字彙」の校正をなす、○夜、引続き「哲学字彙」の校正をなす、
- 三日、午前、岩橋遵成、林高美、今福忍、小杉醇、山田麒太郎、若木廣良、齋藤榮、都河龍、中村武羅夫、豊田臻、補永茂助、蘭部秀朝、得能文来訪す、○秋山悟庵より来状、○午后、古川黄一、春山育次郎、原田秀泰、山方泰来訪す、○「哲学字彙」の校正を丸善に送る、○赤井直好より来状、○演説速記を田村又六に送る、○検定試験の答案を読む、○引続き答案を読む、
- 四日、午前、深作安文、岸田繁次郎、勝水淳行、森良三郎等来談す、○弘道館より使者来る、○検定試験の答案を読む、○平山正、那智典、齋藤久米治、杉原九郎、小泉秀之助、門脇欽吾、茂手木與一、篠原助市、海野幸徳、宮本貞美、加藤孫平、友國晴子、松宮助之丞、廣羽武雄、山崎勇、服部捨太郎、凡そ拾六名、東亜協会々員となる、○午后、書状を小田切磐太郎、安藤季雄、松宮助之丞、坂井敬義、大浦屋喜代に、葉書を来栖守衛、堀謙徳、長野範亮、新保巽に送る、○夜、林勃爾来談す、○書状を中島力造及び織田淵龍に送る、○検定試験の答案を読む、
- 五日、午前、浦谷熊吉来談す、○大工経師屋等来りて天井壁等の修繕をなす、○午后、森良三郎来談す、○釋快祐来訪す、有故不遇、○検定試験の答案を読む、○夜、引続き答案を読む、○伊藤吉之助来談す、
- 六日、午前、検定試験の答案を読む、○千賀さだ子来訪す、○午后、引続き答案を読む、○玉井廣平文部省講習会御礼の為に来る、○加藤玄智来訪す、○文部省より来状、○夜、引続き答案を読む、○此日、経師屋来る、○下瀬雅允逝く、享年五十三、
- 七日、午前、長野範亮より写真を送来る、○検定試験答案を読む、○小谷重、源良英来訪す、○午后、引続き答案を読む、○金港堂より原稿を送来る、○沼津より遺失の缶詰六箇を送来る、○夜、興学会に赴く、○千賀さだ子来訪す、○引続き答案を読む、○此日、木山熊次郎逝く、享年三十二、〔頁下部に「木山学士逝去」の新聞記事切抜貼付〕○経師屋来る、○岸田繁次郎来談す、
- 八日、午前、神奈川県庁より「講演集」五部を送来る、○答案を読了す、○松島淺之助、守屋秀顯、石塚龍学、東亜協会々員となる、○書状を山上萬次郎、白井弘、鈴木券太郎、佐藤馬太、菊池俊諦、齋藤唯信、田中義能、磯部武麿、戸野周次郎に送る、○浦谷熊吉、四宮兼之、森良三郎来談す、○午后、書状を井上健兒及び大日本青年中学会に送る、○伊澤修二より写真を送来る、○金港堂の「新編修身」を訂正す、○齋藤精輔来訪す、○白坂栄彦より来状、○夜、原田義藏より来状、○引続き「新編修身」を訂正す、
- 九日、午前、金拾円拾八銭の為換を池善平に送る、○前原助四郎より来状、○文科大学に赴く、○不在中岡部為吉来訪す、○矢野滄浪来る、有故不遇、○宇野哲人、朝鮮館を携来る、○「新編修身」を訂正す、○三浦謹之助より論文を送来る、○午后、英爾を下瀬雅允及び木山熊次郎の葬式に会せしむ、○「新編修身」を訂正す、○「哲学字彙」の校正をなす、○書状を林端、中山文雄、小松倍一、滋賀貞、山岸光宣、堀重里に送る、○山岸光宣来訪す、○夜、伊藤吉之助来訪す、○「哲学字彙」の校正をなす、○此日、経師

屋、仕事を結了す、

十日、午前、八木光貫、新保巽、長野豊、矢野滄浪、森良三郎来訪す、
○「哲学字彙」の校正をなす、○午后、引続き「哲学字彙」の校正をなす、○夜、「新編修身」を訂正す、

十一日、午前、「新編修身」を訂正す、○ペンキ屋来る、○伊藤吉之助、小谷重等来訪す、○午后、浦谷熊吉、加藤駒二、辻本卯藏来訪す、○「新編修身」を訂正す、○原義藏より来状、○教科書会より書類来る、○晩景、岩田僊太郎来談す、○運動に出づ、○夜、「哲学字彙」の校正をなす、○ペンキ屋来る、

十二日、午前、校正を丸善及び博文館に送る、○森良三郎来訪す、
○古事類苑を送来る、○弘道館より使者を遣はし、児童心理学、哲学汎論、実験心理写真等を送来る、○午后、櫻井ちか子来訪す、
○長尾豊来る、乃ち談話を筆記せしむ、○岩橋遵成、齋藤栄来訪す、有故不遇、○ペンキ屋来る、○田村又六より来状、○夜、文科大学より岩橋遵成の報告書を送来る、○伊藤吉之助来訪す、○小林郁より来状、○序文を弘道館に送る、○此日、「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、

十三日、午前、文科大学より来状、○学習院に赴く、○午后、文科大学より来状、○平塚唯鳩、浦谷熊吉、宮坂喆宗来訪す、○「新編修身」を訂正す、○「国民教育と家族制度」成る、○大口喜六より礼状を送来る、○夜、引続き「新編修身」を訂正す、○此日、日本美術社より案内状来る、

十四日、午前、石原即聞、女子大学、弘道館、林政穂より来状、○弘道館より東亜協会出版物五十五部を送来る、○有賀長雄、森良三郎来訪す、○研究、○和漢問答を読む、○午后、講義に大学に

赴く、○池善平より来状、○弘道館より校正来る、○校正を弘道館に送る、○吉川弘文館より「大日史索引」を送来る、○夜、「哲学字彙」の校正をなす、○此日、ペンキ屋来る、

十五日、午前、豊田道之助、武内紫明来訪す、○小谷重より原稿を送来る、○午后、姉崎正治老母、深作安文、浦谷熊吉、岸田繁次郎来訪す、○丸善より校正来る、○James, Some Problems of Philosophy を読む、○佐藤馬太、荒川助三郎、山岸光宣、東亜協会々員となる、○夜、「哲学字彙」の校正をなす、

十六日、午前、講義に高等師範に赴く、○不在中浦谷熊吉来訪す、
○午后、弘道館より校正来る、○校正を弘道館の使者に付与す、
○矢野文雄、葡萄壺籠を携来る、○木村善太郎、伊藤吉之助、有馬祐政、来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を筆記せしむ、○夜、「哲学字彙」の校正をなす、○吉田夫妻来談す、

十七日、午前、地震、○岩橋遵成、渡邊政吉、小川竹男来訪す、
○紀平正美、桑名益を携来る、○James, Some Problems of Philosophy を読む、○午后、杉山直喜より速記を送来る、○引続きJamesを読む、○川田正澂来訪す、○妻子相携へて向島の百花園に遊ばず、○Schopenhauer, Ueber das metaphysische Bedürfniss des Menschen を読む、○夜、引続きSchopenhauerを読む、

十八日、午前、講義に大学に赴く、○ジヨルダン博士の講演を聴く、
○午后、佐々弘文、齋藤栄、浦谷熊吉、手塚光貴来訪す、○速記を訂正す、○山陽新報社より来状、○夜、速記を訂正す、○和仏協会より「社会主義と自由思想」を送来る、○此日、縫子、清子と成美宅に赴く、

十九日、午前、浦谷熊吉来談す、○速記を訂正す、○午后、「平和と戦争」を印刷所に送る、○荒浪市平来る、乃ち談話を速記せしむ、○前川文栄閣店員及び経師屋来る、○「哲学字彙」の校正をなす、○「巡遊所感」中外日報に出づ、○夜、校正を丸善に送る、○引続き校正をなす、○伊藤吉之助外漢学科学生林某来訪す、

二十日、午前、文部省より来状、○学習院に赴く、○午后、文科大
学教授会に赴く、○不在中藤澤清造来訪す、○「修身教科書」九
拾部の奥附を六盟館に付与す、○Gordon 夫人及び川田正澁より
来状、○日本弘道会より速記来る、○大槻快尊、浦谷熊吉来訪す、
○夜、帝国学士院及び教科書会より来状、○「巡遊所感」中外日
報に出づ、○原稿を浦谷熊吉に送る、○「哲学概論追試験問題」
を円藤鎮に送る、○此日、丙午出版社より「悪戦」を送来る、○
「学生宝鑑」百部の奥附を大倉書店に付与す、

廿一日、午前、出雲風土記及び日本書紀を読む、○吉田雪子来る、
○縫子、高等師範附属小学校に赴く、○書状を E. A. Gordon に
送る、○午后、原稿を浦谷熊吉に送る、○講義に大学に赴く、○
高橋貢より来状、○弘道会の速記を訂正す、○夜、文栄閣より「学
界の偉人」を送来る、○速記を弘道館に送る、○妻女相携へて白
山神社に赴く、○校正を三省堂に送る、「頁下部に「ヘボン博士
死す」新日本の大恩人享年九十六」の新聞記事切抜貼付」

廿二日、午前、佐藤秀雄、森良三郎及び前川文栄閣店員来訪す、○「釈
迦牟尼小伝」六百部の奥附を文栄閣に付与す、○校正を三省堂
に送る、○「東亜の光」口絵を印刷所に送る、○Schopenhauer.
Über das metaphysischen Bedürfniss des Menschen を読む、○
午后、引続き Schopenhauer を読む、○伊藤吉之助来訪す、○「巡

遊所感」中外日報に出づ、○夜、引続き Schopenhauer を読む、
○広告文を訂正して之を弘道館に送る、○「哲学字彙」の校
正をなす、○James, Some Problems of Philosophy を読む、○
此日、文科大より追試験答案を送来る、

廿三日、午前、浦谷熊吉来訪す、○James, Some Problems of
Philosophy を読む、○縫子、成美宅に赴く、○大日本統藏經二
套を郵便局より受取る、○午后、書状を玉井廣平及び米林健造に
送る、○「釈迦牟尼小伝」四百部の奥附を前川文栄閣に付与す、
○引続き、James を読む、○「哲学字彙」の校正をなす、○英爾
を大学に遣はす、○夜、心理学会に赴く、○堀謙徳より来状、○
此日、成美小児死亡、

廿四日、秋季皇靈祭、午前、英爾をして成美小児の火葬に会せしむ、
○堀謙徳より「学生宝鑑」を送来る、○補永茂助、齋藤栄、大島
正徳来訪す、○「教界春秋」を草す、○午后、「教界春秋」を草
しりて之を印刷所に送る、○岸田繁次郎来談す、○太田達人、
東亜協会々員となる、○James, Some Problems of Philosophy
を読む、○山口孫右衛門来訪す、有故不遇、○研究、○夜、林
より来状、○研究、

廿五日、午前、尾原亮太郎、蓮沼門三より来状、○講義に大学に赴
く、○午后、矢野文雄及び齋藤精輔より来状、○玉井廣平、江部
鴨村、渡邊政吉来訪す、○「龍溪隨筆」の序文を草す、○夜、飯
島利七、川西初太郎より来状、○「龍溪隨筆」の序を作りて之を
矢野文雄に送る、○出雲風土記を読む、

廿六日、午前、「出雲風土記」を読む、○浦谷熊吉来訪す、○午后、
東京府立第一中学校に赴き、一場の講演をなす、○アンリー、江

原素六、宮地嚴夫等と会見す、○尋いで牛込宗三寺に赴き、素行法会に出づ、○乃木希典、福本誠、柳谷謙太郎等と会見す、○文科大学及び交詢社より来状、○丸善より校正来る、○「出雲風土記」を読む、○夜、新保巽来訪す、○「出雲風土記」「豊後風土記」「常陸風土記」及び「播磨風土記」を読む、○東京府より「修身科講義録」二部を送来る、

廿七日、午前、矢野文雄より来状、○学習院に赴く、○午后、文科大学の教授会に赴く、○前川文栄閣店員、「釈迦牟尼小伝」を携来る、○不在中川田正澂、御礼の為に来る、○国書刊行会より「近世文芸叢書」第十及び「明月記」第一を送来る、○夜「播磨風土記」を読む、○東洋哲学史概説追試験問題を文科大学に送る、廿八日、午前、「播磨風土記」及び「肥前風土記」を読む、○森良三郎来る、○午后、「肥前風土記」を読む、○講義に大学に赴く、○帝国教育会より来状、○James, Some Problems of Philosophyを読む、○夜、「」哲学字彙」の校正をなす、廿九日、午前、浦谷熊吉来談す、○書状を川田澂くまに送る、○James, Some Problems of Philosophyを読む、○益之進、百日咳漸く癒ゆ、乃ち学校に赴く、○所得税四拾貳円拾銭、府税、市税、区費七円七拾七銭合計四拾九円八拾七銭を区役所に収む、○文明協会より「近世泰西英傑伝」(第三)を送来る、○午后、引続きJamesを読む、○木場了本来訪す、○縫子、清子と三越に赴く、○文科大学より使者来る、○大学會計課に書状を送る、○丹羽瀧男来る、○哲学字彙の校正をなす、○夜、藤野房次郎より来状、○引続き哲学字彙の校正をなし、之を丸善に送る、○伊藤吉之助来訪す、○「古風土器逸文」を読む、○豊原清作より来状、

三十日、午前、講義に高等師範に赴く、○午后、吉田豊吉、「越の雪」を携来る、○岸田繁次郎来談す、○波多巖、立花俊道、東亜協会々員となる、○日本弘道会より書状と御礼とを送来る、○哲学会の速記を訂正す、○夜、哲学会に赴く、

十月

一日、午前、在独国長江藤次郎より絵葉書来る、○英爾を浦谷宅に遣はす、○浦谷熊吉、陶山莞爾、林訥、宮崎虎之助来訪す、○丹羽瀧男来る、明日の再会を約す、○午后、深作安文妻来訪す、○田中健助来る、乃ち共に遠賀郡寄宿舎に赴き、修養談をなす、○丸善より校正来る、○夜、研究、○丸山光江より来状、○井上通泰より「北小路後光日記抄」を送来る、○岩田僊太郎より来状、○伊土開戦の報あり、

二日、午前、講義に大学に赴く、○博文館より「国民道德叢書」を送来る、○午后、藤井健治郎より書状と奥附とを送来る、○「師範修身」二百部の奥附を晩成処に送る、○丹羽瀧男来る、乃ち談話を速記せしむ、○辻本卯藏より書状と「学校教育」を送来る、○文科大学より使者来る、○「東亜の光」(六の十)成る、○夜、浦谷熊吉来訪す、○蕃山会及び豊国新聞社より来状、

三日、午前、齋藤木及び遠賀郡寄宿舎生来訪す、○瀨尾総長を大学に訪ふ、○午后、豊橋市教育会より写真二葉を送来る、○相原熊太郎、齋藤庸一郎、松大路某、姉崎正治、小谷重来訪す、○速記を訂正す、○夜、帝国教育会に赴く、○伊藤吉之助来訪す、○此日、法学博士鳩山和夫逝く、享年五十六、○厳正中立の詔書出づ、

四日、午前、学習院に赴く、○午后、英国倫敦大学評議員経済学者ウェブ氏の招待会に大学に赴く、○尋いで教授会に出づ、○丹羽瀧男

より速記を送来る、○大江文城より書状と校正摺とを送来る、○同文館より「心理学通俗講話」を送来る、○幸田成友より「懷徳堂日記」を送来る、○此頃、「現代文学私見」「横浜貿易新報」に出づ、○不在中吉田熊次来る、

五日、午前、哲学会の速記を訂正して之を大島正徳に送る、○「中臣祓」を読む、○縫子を三井銀行に遣はす、○「現代文学私見」横浜貿易新報に出づ、○午后、講義に大学に赴く、○「中学修身」壹百部の奥附を文学社に付与す、○英爾を浦谷宅に遣はす、○大野開藏、東亜協会々員となる、○夜、速記を訂正す、○帝国学士院より来状、○此頃、「真の勇氣を養へ」日本青年に出で、「蕃山先生の学説」陽明学に出づ、

六日、午前、浦谷熊吉、宮本和吉、秋山悟庵、岩橋遵成、渡辺政吉来訪す、○文会堂より「欧米文明記」を送来る、○午后、参拾五円の為換を池善平に送る、○式円の香典と弔詞を甘木松岡又右衛門の遺族に送る、○日本学会の案内状を発送す、○E. A. Gordonより来状、○速記を訂正す、○文科大学の使者来る、○池善平及び岸田繁次郎より来状、○境野哲来訪す、○巢鴨及び池袋に遊ぶ、○夜、速記を訂正す、○日本学会の案内状を発送す、

七日、午前、山内雄太郎、小林義則来訪す、○同文館の速記を訂正す、○「現代文学私見」横浜貿易新報に出づ、○午后、戸井源藏より来状、○相澤熙、春山有次郎来訪す、○勝水淳行、校正を携来る、○前川文栄閣より奈良漬を送来る、○教科書会より書類を送来る、○速記を訂正して同文館の使者に付与す、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、○小原新三、辻新次、堀口助治、大日本雄弁会及び丸善等より来状、○此日、池善平より「十三経註疏」を

送来る、

八日、午前、田中義成より来状、○岡本幸実、宮崎虎之助、岩崎歌郎、伊藤吉之助来訪す、○小原新三より「朝鮮寺刹史料」二冊を送来る、○小谷重より原稿を送来る、○東西聖哲の生年月日を考ふるに左の如し

生 卒

孔子・・・・・・十月廿一日・・・・・・四月十一日

ソクラテス・・・・・・？・・・・・・？

カント・・・・・・四月廿二日・・・・・・二月十二日

仏陀・・・・・・四月 八日・・・・・・十月十三日

基督・・・・・・十二月廿五日・・・・・・四月 三日

○午后、研究、○浦谷熊吉、前川又三郎、植草泰治来訪す、○重田定一、東亜協会々員となる、○書状を乃木大将に送る、○James. Some Problems of Philosophy を読む、○夜、引続き、James を読む、○此日、兎輩、動物園に遊ぶ、

九日、午前、前川清より来状、○講義に大学に赴く、○午后、姉崎正治、土田誠一來訪す、○「古風土記逸文」を読む、○「新編修身」を訂正す、○原田義藏及び文芸協会より来状、○夜、引続き「新編修身」を訂正す、○大学図書館及び曾根松太郎より来状、○史料編纂掛より「大日本古文书」一冊を送来る、○「古風土記逸文」を読む、

十日、午前、有馬祐政より校正来る、○校正を博文館に送る、○Prof. Sidney Webb より来状、○井上泰岳、山中立木来訪す、○書状をE. A. Gordon に送る、○「古風土記逸文」を読む、○午后、「新編修身」を訂正す、○書状を史料編纂掛に送る、○「古風土記逸文」

を読む、○夜、上田萬年、宮崎彦磨来訪す、○引続き、「新編修身」を訂正す、

十一日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○総長を訪ふ、○夜、Prof. Sidney Webb and Mrs. Webb を築地精養軒に訪ひ、与に俱に会食して高橋順次郎と共に帰る、帰途東京倶楽部に寄る、○不在中相澤熙来訪す、○米林健造、海野幸藏より来状、○此日、史料編纂掛より「大日本古文書」二冊、横山又次郎より論文を送来る、○浦谷熊吉、美術本を携来る、

十二日、午前、宇野哲人より来状、○書状を宇野哲人及び松浦鎮次郎に送る、○「古風土記逸文」を読む、○研究、○宇野哲人、相澤熙来訪す、○午后、講義に大学に赴く、○夜、帝国学士院に赴く、○文部省及び丸善より来状、○不在中尾原亮太郎来訪す、○同文館より校正来る、○此頃、武昌騒乱、

十三日、午前、「新編修身」を訂正す、○浦谷熊吉、荒浪市平来訪す、○博文館より奥附を送来る、○午后、引続き、「新編修身」を訂正す、○大島正徳、深作安文、尾原亮太郎来訪す、○小谷重来る、乃ち共に晚餐をなす、○北村澤吉来訪す、有故不遇、○大江文城より来状、○夜、桑原隲藏より松蓆を送来る、○引続き「新編修身」を訂正す、

十四日、午前、Gordon より来状、○講義に高等師範に赴く、○不在中岸田繁次郎来訪す、○堀重里、松田又彦、東亜協会々員となる、○金港堂の使者来る、乃ち原稿二冊を付与す、○午后、通信官吏養成所に赴き、「人生と修養」に就いて一場の講演をなす、聴衆約二百名、○金沢庄三郎来訪す、○夜、電報を栃木県庁内堀口助治に送る、○「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○此

日、松岡もとより「川茸」を、松本君平より「華瀛宝典」を送来る、○丸善より校正来る、

十五日、午前、栃木県教育会に赴く、○午后、宇都宮師範学校に於て「国民教育と平和主義」を演述す、○栃木県知事、佐々木秀司、堀口助治、和田繁太郎等と会見す、○不在中中島泰藏来訪す、○夜、九時帰宅、○此頃、黄興反乱益々熾なり、

十六日、午前、雨、○講義に大学に赴く、○安田旭軒来る、有故不遇、○午后、浦谷熊吉、深作安文、岸田繁次郎、玉井廣平来訪す、○荒浪市平来る、乃ち談話を速記せしむ、○川田鎮次郎より「世界訓話」、白河次郎より「古典教育」、丸善より Henri Bergson Creative Evolution を送来る、○北村澤吉来談す、○滋賀貞、伊藤重威、東亜協会々員となる、○夜、葉書を宇野哲人、白河次郎、井上通泰、吉田熊次、川田鎮次及び大島正徳に送る、○「武士道叢書」上巻検印五百を博文館に送る、○「死生の問題」に就て「哲学雑誌」に出づ、

十七日、午前、校正を同文館に送る、○浦谷熊吉来談す、○「哲学字彙」の校正をなす、○午后、E. A. Gordon を訪ふ、○「哲学字彙」の校正をなす、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を筆記せしむ、○南條文雄及び大江文城より来状、○此日、吉田熊次より使者来る、○石橋則隆来訪す、

十八日、午前、学習院に赴く、学習院休業、○午后、教授会に赴く、○小野藍次郎大学に来訪す、○英爾を伊藤吉之助寓居に遣はす、○杉山直喜の速記を訂正す、○原平吉より来状、○林勃爾来談す、○夜、速記を訂正し了る、○東京音楽学校及び陽明学会等より来状、○金子堅太郎より招待状来る、

- 十九日、午前、松浦伯爵より来状、○浦谷熊吉、坂巻登介、伊藤吉之助来訪す、○原稿を浦谷熊吉及び日清印刷会社に送る、○「国語の研究」を読む、○「国民道徳講話」要領、防長新聞に出づ、○水道修繕費壹円拾八銭を区役所に納む、○長濱和吉郎来訪す、有故不遇、○午后、講義に大学に赴く、○境野哲来訪す、○哲学字彙の校正をなす、○文部省より書状と速記とを送来る、○速記を訂正す、○夜、浦谷熊吉来訪す、○「哲学字彙」の校正をなす、○速記を訂正す、○此日、縫子、高等師範の運動会に赴く、二十日、午前、貞金近松、荻野伸三郎、武内紫明来訪す、○井上泰岳来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「哲学字彙」の校正をなす、○縫子、得能文及び笹川宅に至る、○午后、「朱子哲学」壹百部及び「古学哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○「哲学大辞書」の校正をなして之を同文館に送る、○校正を丸善に送る、○夜、教員検定委員会より来状、○速記を訂正す、○此日、矢野龍溪より「龍溪随筆」を送来る、○此頃支那革命軍戦鬪闌なり、廿一日、午前、浦谷熊吉来談す、○清子を拉して瓦斯会社に赴く、○「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、○不在中岸田繁次郎来る、○午后、文明協会より「泰西英傑伝」(巻四)及び「政治的發展の一世紀」を送来る、○森良三郎、岸田繁次郎来談す、○孔子誕辰会に山上御殿に赴く、加藤弘之、濱尾新、矢野文雄、三宅雄次郎、徳川達孝等約三十名来会す、○夜、心理学会に蒞む、柿内三郎、「生活の化学」を講演す、○雨、○帝国学士院より来状、○同文館より校正来る、○此日、春枝、遠足に大磯に赴く、○写真を武内紫明に付与す、○「東亜の光」口絵を印刷所に送る、廿二日、午前、岩田僊太郎より来状、○小谷重より原稿を送来る、○校正を丸善に送る、○坂本謹吾、浦谷熊吉、目黒甚七来訪す、○成美より松茸志籠を送来る、○明治大学より「明治大学史」等を送来る、○午后、丁酉倫理会に赴く、○夜、十時頃帰宅、○小杉醇より来状、廿三日、午前、講義に大学に赴く、○長谷川惣治来訪す、○午后、補永茂助、北村澤吉、浦谷熊吉来訪す、○原稿を中島徳藏の使者に付与す、○博文館より献納本「武士道叢書」拾式冊を送来る、○国語調査会より書籍二冊を送来る、○夜、「新編修身」を訂正す、○此日、堀田相爾より来状、○不在中小野直来訪す、廿四日、午前、Henri Bergson, Creative Evolution を読む、○「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、「国民道徳講話」防長新聞に出づ、○「新編修身」を訂正す、○午后、「大日本統藏経」二套を受取る、○府税市税金拾壹円九拾五銭を区役所に納む、○宮内省及び外務省并に高等師範より招待状来る、○井上成美、小尾範治来訪す、○「新編修身」を訂正す、○英爾を大学に遣はす、○大江文城より来状、○引続き Bergson を読む、○夜、「教界春秋」を草す、○此日、奥保鞆、元帥となる、○ペンキ屋来る、廿五日、午前、学習院に赴く、○「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、○午后、英爾を中央金庫に遣はす、○大江文城より電報来る、○鷹野勇雄、山口袈裟治来訪す、○「教界春秋」を草したりて、之を印刷所に送る、○小野藍次郎より来状、○夜、「程朱哲学史論」の序を草す、○電報を大江文城に送る、○此日、ペンキ屋来る、廿六日、午前、小中村清名より来状、○「教育と修養」二百部の奥附を弘道館に付与す、○弘道館より「学説乞丐袋」を送来る、○

「国民道徳講話」防長新聞に出づ、○「程朱哲学史論」の序を草す、○午后、講義に大学に赴く、○中外日報宗教講演会に帝國教育会に赴き、「支那の変乱と文明の趨勢」を演述す、○同文館より原稿を送来る、○夜、序文を大江文城に送る、○書状を金子堅太郎に送る、○此日、「漢籍国字解全書」(管子下)を送来る、

廿七日、午前、Henri Bergson, Creative Evolution を読む、○佐々木喆哉より来状、○小谷重、長濱和吉郎来訪す、○堀田相爾来る、有故不遇、○午后、北豊島郡教育会に板橋に赴き、「社会の趨勢と国民道徳」を演述す、○田中端、熊谷傳一郎(町長)及び田中文五郎(村長)等と会見す、○平田平三より来状、○博文館より「現代名士の修養」を送来る、○夜、土屋新之助及び国民新聞并に報知新聞記者来訪す、○堀口助治より来状、○此日、アーサー、ロイド逝く、享年五十九、○岸原鴻太郎より「政党政治廢棄論」を送来る、○坂巻登介来訪す、

廿八日、午前、同文館より校正来る、Henri Bergson, Creative Evolution を読む、○土井亀之進、榊田秀乘来訪す、○井口丑二より「二宮翁金言集」を送来る、○「国民道徳講話」防長新聞に、「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、○「中清叛乱と将来」やまと新聞に出づ、○午后、「師範修身」七拾部の奥附を金港堂に付与す、○校正を同文館に送る、○高等師範寄宿舎より来状、○英爾を浦谷宅に遣はす、○ロイドの遺族を訪うて弔詞を述べ、尋いで素行会に松浦伯爵家に赴く、○夜、通俗學術講話会に大学に赴く、○十時頃帰宅、○不在中宮崎彦磨来訪す、○英爾を増野悦興の追悼会に遣はす、

廿九日、午前、文科大学及び原内相より来状、○三才社より Henri

Bergson, Matière et memoire, Essai sur les données immédiates de la conscience, L'évolution créatrice を送来る、○松浦一及びやまと新聞記者来訪す、○午后、哲学会に大学に赴き、「意志活動と自我概念」に就いて講演をなす、○大江文城より来状、○同文館より末広二本と袱紗とを送来る、○小谷重より原稿を送来る、○不在中勝水淳行来りて原稿を携去る、○夜、哲学会の速記を訂正す、○丸善より来状、○此日、大掃除をなす、

三十日、午前、講義に大学に赴く、○午后、上宮教会に赴き、「教育勅語」に就き、一場の講演をなす、○英爾をしてアーサー、ロイドの葬式に会せしむ、○通信協会より御礼の為に来る、○若木廣良、榊田秀乘来訪す、○速記を訂正す、○夜、平元兵吾、宮崎彦磨来訪す、○速記を訂正す、○伊藤吉之助来談す、○此日、佐々木吉三郎より「教育的美学」を送来る、○国文学同窓生より来状、三十一日、午前、小谷重、浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○速記を訂正す、○「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、○Henri Bergson, Matière et memoire 及び Essai sur les données immédiates de la conscience を購入す、○午后、若木廣良、枝元長夫来訪す、○速記を訂正す、○書状を大江文城に送る、○夜、鷹野勇雄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○岸田繁次郎、河野清丸、宮辺富次郎来訪す、○曾我部俊雄及び暁星学校より来状、○此日、子爵井上良馨、元帥となる、

十一月

一日、午前、「東亜の光」(六の十一)成る、○速記を訂正す、○学習院女学部に赴く、○「国民道徳講話」防長新聞に出て、「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、○国書刊行会より「明

月記」(第二)及び「神道叢説」を送来る、○午后、原稿を宮本和吉に送る、○辻村鑑より来状、○家屋物品火災保険料総計六拾壹円七拾五銭を払込む、○「新編修身」を訂正す、○岩田徳太郎来訪す、○「支那変乱と文明の趨勢」中外日報に出づ、○夜、「新編修身」第三巻を訂正し了る、○「修範修身」を閲読す、

二日、午前、「神道学則日本魂」「日本学則」「学規の大綱」を読む、○浦谷熊吉来談す、○「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、○鷹野勇雄来る、乃ち之に写真を付与す、○「御鎮座次第記」を読む、○午后、講義に大学に赴く、○不在中東林寺和尚来訪す、○「支那変乱と文明の趨勢」中外日報に出づ、○英爾を三才社に遣はす、○国文学出身者尾上八郎、山内素行、吉丸一昌等の招待に上野精養軒に赴く、○夜、十時頃帰宅、○三省堂より原稿を送来る、

三日、天長節、午前、下山丹波両教授祝賀会より来状、○三上義夫来訪す、有故不遇、○「御鎮座伝記」を読む、○天長節祝宴に宮中に赴く、○午后、校正を同文館に送る、○夜、又校正を同文館に送る、○清子、内田外相の夜会に赴く、○博文館員の筆記を訂正す、○一時頃清子帰宅、

四日、午前、小谷重来る、乃ち之に「新編修身」第三巻を付与す、○鷹野勇雄来る、乃ち之に原稿を付与す、○山口袈裟治、御礼の為に来る、○三省堂の校正を閲読す、○浦谷熊吉来談す、○午后、有馬祐政、黒川眞道、博文館員中村某、深作安文来訪す、○三省堂の校正を閲読す、○吉田静致より来状、○運動に神田に赴く、○夜、岸田繁次郎来談す、○書状を浦谷熊吉に、校正を三省堂に送る、○James, Some Problems of Philosophy 及び Henri

Bergson, Creative Evolution を読む、

五日、午前、遠藤隆吉、蠣瀬彦藏、村澤喜代人、三上義夫来訪す、○帝国学士院より来状、○午后、東亜協会秋季講演大会を大学に開く、○「過去の宗教と将来の道徳」を大会に演述す、○夜、東亜協会評議員会を山上御殿に開く、○同文館より校正を送来る、○十時頃帰宅、○此日、島本愛之助より来状、○服部教一、東亜協会々員となる、

六日、午前、講義に大学に赴く、○午后、電報を小野藍次郎に送る、○村澤喜代人、原平吉、伊藤吉之助、榊田秀乘来訪す、○藤井氏の原稿を閲読す、○増澤出版所より来状、○妻子等、靖国神社の祭礼に赴く、○Second International Moral Education Congress より来状、○夜、Bergson, Creative Evolution を読む、○此頃支那騷乱益々甚し、

七日、午前、六時上野発、茨木県佐野村に赴き、那珂郡教育会に於て「人生の五大事」を演述す、聴衆約一千二百名、○事務官平賀周、本多文雄、西野邦造、澤島美畝、鹿志村勝一、櫻村才介、藤尾武吉、西野治郎兵衛、井野崎勝武、清水安之允、郡長丹誠、根本正等と会場に会見す、○午后、二時半出發、○夜、八時頃帰宅、○不在中古川黄一來訪す、○丸善より来状、○博文館より為換を送来る、○此日、「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、○此頃、支那革命党の氣勢愈々熾なり、

八日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○小谷重より原稿を送来る、○文部省より検定試験の答案を送来る、○龍山義亮、浦谷熊吉来談す、○不在中谷内正順、速水不染来訪す、○文学士猪股松之助、東亜協会々員となる、○

「国民教育と平和主義」下野新聞に出づ、○夜、「皇位の絶対と日本民族」を亀谷聖馨より送来る、○宮本和吉来談す、○「御鎮座本紀」を読む、○此日、小幡金平より来状、

九日、午前、村澤喜代人、森良三郎来訪す、○「御鎮座本紀」及び「国民性十論」を読む、○「意志活動と自我概念」横濱貿易新報に出で、「真の勇氣を養へ」山陰新聞に出づ、○午后、旧事記を読む、○講義に大学に赴く、○谷口正順、大学に来訪す、○哲学字彙の校正をなす、○夜、松浦一、吉田熊次、同雪子来談す、○哲学字彙の校正をなす、○文科大学より来状、○此頃、「国民道德講話」富山県教育雑誌に出づ、

十日、午前、村松元雄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○同文館より「学芸大観」を送来る、○「哲学の要求及び将来」学芸大観に出づ、○検定試験の答案を読む、○午后、引続き答案を読む、○校正を丸善に送る、○英爾を藤岡勝二宅に遣はす、○在独逸若守義孝より葉書来る、○夜、教科書会より来状、○鈴木庄平来る、乃ち談話を速記せしむ、

十一日、午前、佐伯俊二及び樫村才介より来状、○講義に高等師範に赴く、○不在中村上静人來訪す、○「意志活動と自我概念」横濱貿易新報に出づ、○午后、検定試験の答案を讀了す、○曹洞宗青年会員來訪す、○三省堂の校正を閲読す、○夜、三省堂の校正を閲読す、○計見東山より来状、

十二日、午前、松浦一、中島萬次郎、山崎直三、宮井虎三郎、古川黄一、津野慶太郎、速水不染來訪す、○帝国教育会より来状、○在独逸朝永三十郎、小林照朗、坪井正五郎、前田正名等より繪葉書来る、○「古事類苑」(政事部第四)を送来る、○校正を齋藤精輔に送る、

○午后、上宮教会より使者来る、○「聖人」を草して之を齋藤精輔に送る、○浦谷熊吉來訪す、○夜、帝国学士院に赴く、○此日、言語学科廿五周年記念会より来状、

十三日、午前、岩田僊太郎、反省社及び文科大学より来状、○講義に大学に赴く、○岡田和一郎より結婚披露の案内状来る、○午后、「新編修身」を訂正す、○佐々弘文來談す、○夜、文科大学より来状、○富田貞松より繪葉書来る、○「家族主義と個人主義」丁酉倫理に出づ、○宮内省より觀菊会の招待状来る、○峯間信吉、小谷重より来状、○速記者来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「新編倫理」を訂正す、

十四日、午前、宮井虎三郎より来状、○修身検定試験に文部省に赴く、○夜、八時頃帰宅、○不在中齋藤庸一郎、村上静人來訪す、○此日、「倫理と教育」式百部の奥附を弘道館に付与す、○三島吉太郎より書状と「蒲生君平全集」とを送来る、○帝国学士院より「論文」沓包を送来る、

十五日、午前、学習院に赴く、○微に腹痛を患ふ、○午后、臥蓐、○浦谷熊吉來訪す、○同文館より校正来る、○杉山直喜及び佃速記所より各々速記を送来る、○夜、渡辺眞來診す、○樫村才介より来状、○素行会より「議事録」を送来る、○此日、九州に於ける大演習了る、

十六日、午前、腹痛少しく軽快、○増田秀^マ乗、河野繁雄來訪す、○「新編修身」を訂正す、○午后、引続き「新編修身」を訂正す、○夜、「新編修身」を訂正す、○婦人画報社の速記を訂正す、○此日、谷森善臣逝く、享年九十五、○小野福平逝く、享年四十四、

十七日、午前、齋藤庸一郎、深作安文、伊藤吉之助、浦谷熊吉、岸

田繁次郎、増田秀乘、森良三郎来訪す、○金港堂より使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○小石川郵便局より来状、○同文館より校正来る、○午后、土屋新之助来訪す、○原稿を婦人画報社に送る、○山崎麓より来状、○速記を訂正す、○松村介石、東亜協会々員となる、○「実歴談話」中学世界に出づ、○夜、飯島魁より来状、○速記を訂正す、○此日、病気快癒、

十八日、午前、井上健兒及び辻新次より来状、○辻本卯藏、櫛引成太、有賀長雄来訪す、○書状を櫻村才介に送る、○速記を訂正す、○午后、榊田秀乘来る、乃ち之に田所美治宛の紹介状を付与す、○速記を訂正す、○勝山直喜より来状、○哲学字彙の校正をなす、○運動に巢鴨に赴く、○縫子、春枝と文部省展覧会に赴く、○原稿を印刷所に送る、○夜、哲学字彙の校正をなす、○校正を丸善に送る、○大江文城より来状、○藤井氏の「師範修身」を訂正す、○丸善より来状、○此日、吉田熊次より鶏卵壺箱を病気見舞として送る、

十九日、午前、榊田秀乘より来状、○浦谷熊吉、幣原坦、黒川眞道、巨理章三郎来訪す、○午后、岩田僊太郎、松大路信充来訪す、○贈位先哲祝典大会に帝國教育会に赴く、○貝原益軒に就いて意見を述べ、○夜、言語学科廿五周年記念会の招待に山上御殿に赴く、○九時頃帰宅、○丸善より契約書を送来る、○大江文城より茶三缶を送来る、○安藤正次、東亜協会々員となる、○美濃部達吉より書類を送来る、○帝國学士院及び渡辺良光より来状、○此日、家族一同、家族会に赴く、

二十日、午前、同文館より校正来る、○講義に大学に赴く、○府税、市税、特別税金式円拾六銭を区役所に納む、○不在中阿部滋金来

訪す、○午后、箕輪静之助、松大路信充、阿部滋金、宮崎彦磨、岸田繁次郎、浦谷熊吉来訪す、○博文館より硯箱と菓子料とを送来る、○同文館の校正を観る、○夜、校正を同文館に送る、○帝國学士院より来状、○此日、中島力造より「西洋哲学十回講義」を送来る、

廿一日、午前、哲学大辞書の校正を観、二回之を同文館に送る、○曹洞宗大学林に赴く、○午后、「人生と修養」に就いて演説す、○文科大学及び American Consular Service より来状、○坂巻登介来談す、○「東亜の光」口絵を活版所に送る、○夜、在朝鮮鳥居龍藏より絵葉書来る、○藤井氏の原稿を訂正す、○吉田熊次より書状と「女子研究」とを送来る、○三省堂より校「正」来る、○校正を三省堂に送る、○マニユファクチュラス生命保険会社より来状、

廿二日、午前、学習院に赴く、○午后、山上御殿に赴く、○不在中山崎寛、松大路信充来訪す、○哲学会、花岳寺等より来状、○大寺より「和漢書々名目録」を受く、○夜、皇典講究所より来状、○丸善より校正来る、○藤井氏の原稿を訂正す、○此頃支那の動乱、依然として止まず。

廿三日、午前、使者を宮内省に遣はす、○宮井虎三郎来訪す、○藤井氏の原稿を訂正す、○午后、齋藤庸一郎、原田義藏の御礼を携来る、○原稿を訂正す、○丸善より校正を送来る、○丸善及び活版所より来状、○英爾を藤井健治郎宅に遣はす、○「哲学字彙」の校正をなす、○「東亜の光」口絵解題の校正を活版所に送る、○夜、鶴山保勝会より書状及び写真を送来る、○藤井健治郎来訪す、

廿四日、午前、校正を丸善に送る、○宮本和吉、伊藤吉之助、浦谷熊吉及び北京市電気局員来訪す、○「教界春秋」を草す、○千代を大学会計課に遣はす、○午后、委員会に帝国学士院に赴く、○漢籍国字解全書（卷廿一）を送る、○Otto KimmelよりOstasiatische Zeitschrift発行の趣意書を送る、○「教界春秋」を草す、○哲学会より来状、○夜、「教界春秋」を活版所に送る、○哲学会の速記を訂正す、○此日、原稿と写真とを山崎麓に付与す、

廿五日、午前、山内佐太郎より来状、○講義に高等師範に赴く、○午后、岸田繁次郎来談す、○哲学会に大学に赴く、○夜、八時頃帰宅、○丸善及び日比谷図書館より来状、○縫子、神経痛を患ふ、○丸山正彦より来状、○此日、英爾を穂積八束宅へ遣はす、○寄附金五拾円を松大路信充に付与す、○高子、発熱、風邪の気味あり、

廿六日、午前、葦津耕次郎より来状、○千葉県佐倉町に郡教育に赴く、告森知事、山内佐太郎、福中儀之助等と会見す、○不在中志田勇七郎、中西弥三郎、千葉亀雄、木下孝之助、武内紫明、井上道喜来訪す、○丸善より校正来る、○丸善より来状、○松浦一より書状と菓物とを送る、○文部省図書局より教科書を送る、○小谷重の使者来る、○校正を丸善に送る、○此日、午前四時半小村壽太郎逝く、享年五十七、

廿七日、午前、有馬祐政より校正を送る、○講義に大学に赴く、○大日本統藏教二套を受取る、○午后、英爾を三井銀行に遣はす、○校正を博文館に送る、○志田勇七郎、浦谷熊吉来訪す、○哲学会の速記を訂正す、○夜、神道研究会に山上御殿に赴く、○榊保三郎より論文を送る、○教科書会より来状、○此日、縫子、軽

快、高子亦稍々軽快、

廿八日、午前、丸善より来状、○哲学会の速記を訂正す、○運動に出づ、○井上成美来診す、○午后、雨、○速記を訂正し了り、之を宮本和吉に付与す、○正誤文を宮本和吉に送る、○「哲学字彙」の校正をなす、○夜、引続き「哲学字彙」の校正をなす、○藤井健治郎来訪す、○此日、ウエルリヤム、アストン逝く、享年七十、

廿九日、午前、哲学会より来状、○学習院に赴く、○午后、教授会に赴く、○不在中北原種忠来訪す、○Otto Kimmel und William Cohnより来状、○帝国学士院、音楽学校及びCleveland Pressより来状、○「哲学字彙」の校正をなす、○夜、引続き「哲学字彙」の校正をなす、○校正を丸善に送る、○再び校正を丸善に送る、○書状を元良勇次郎に送る、○「新編修身」を訂正す、

三十日、午前、金港堂より印税を送る、○浦谷熊吉来談す、○「新編修身」を訂正す、○午后、講義に大学に赴く、○「神道弁惑」を読む、○小村壽太郎の計報来る、○井上精一、より来状、○森良三郎、有馬祐政、岸田繁次郎来訪す、○市村瓊次郎委託の「懷徳堂遺書」を大学に於て受取る、○英爾を三井銀行に遣はす、○夜、北原種忠、中山欽一郎より来状、○「新編修身」を訂正す、○史料編纂掛より「大日本史料」巻冊を送る、○此日、勝田吉次郎より蜜柑壱箱を送る、

十二月

一日、午前、同文館及び報徳会より来状、○北原種忠、秋山悟庵、中西弥三郎、来訪す、○「新編修身」を訂正し了り、之を小谷重に付与す、○「女子修養に関する歳暮の雑感」婦人画報に出づ、

- 北原種忠、東亜協会々員となる、○午后、森良三郎来談す、○岸田繁次郎、「東亜の光」(六の十二) 拾部を携来る、○暁星学校、東京府女子師範及び外国語学校より来状、○博品館に赴く、○夜、石川貞次郎来る、乃ち談話を速記せしむ、○手島精一より来状、
- 二日、午前、丸善及び蓮沼門三より来状、○国書刊行会より「史籍雑纂」及び「事実文編」を送来る、○「哲学字彙」の英文序文を作る、○「日本宗教の趨勢」道に出づ、○文成社より使者来る、○午后、引き続き英文序文を草す、○龍山義亮来訪す、○縫子、女子師範の父兄懇話会に赴く、○夜、英文序文を草し了る、○James, Some Problems of Philosophy を読む、○此日、暹羅皇帝マハー、ワジラプーの戴冠式行はる、
- 三日、午前、岩橋遵成、若木廣良、中島泰藏、田中義能、井上成美来訪す、○英爾を元良勇次郎宅に遣はす、○女子大学より来状、○午后、Henri Bergson, Creative Evolution を読む、○元良勇次郎を訪ふ、○縫子、井上道喜を齋藤省三宅に訪ふ、○夜、引き続きBergson を読む、○井上又藏より来状、
- 四日、午前、蓮沼門三より来状、○講義に大学に赴く、○午后、古川黄一、千葉亀雄、岩下壮一、浦谷熊吉来訪す、○英文序文中島力造に送る、○田中知邦より書状と書籍二冊とを送来る、○大倉書店より印税を送来る、○帝国教育会より礼状と菓子箱とを送来る、○夜、弁名及び訓幼字義等を読む、○書状を小谷重に送る、
- 五日、午前、「教界春秋」を草す、○午后、丸善より校正来る、○校正を丸善に送る、○「教界春秋」を草す、○弘道会より原稿を送来る、○三島吉太郎、岸田繁次郎、飯沼松枝来訪す、○夜、山中立木、北原種忠より来状、○「人生と修養」通信協会雑誌に出づ、○「教界春秋」を草す、
- 六日、午前、学習院に赴く、○漢文学会より来状、○文部省より教科書類を送来る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○平島貞治、飯沼松枝、小谷重及び弘道館より来状、○小谷重より原稿、宮川壽美子より著書を送来る、○不在中岸田繁次郎来訪す、○夜、帝国学士院及び菊盛永造より来状、○書状を大槻文彦に送る、○此日、支那攝政王退位、世統及び徐世昌、太伝となる、
- 七日、午前、「論文」を草す、○午后、講義に大学に赴く、○阿部宗孝、大学に来訪す、○不在中岸田繁次郎来訪す、○浦谷熊吉来談す、○丸善より校正来る、○校正を丸善に送る、○夜、岸田繁次郎来訪す、○「論文」を草す、
- 八日、午前、「論文」を草す、○石川景藏、山田勇、長濱和吉郎来訪す、○午后、「論文」を草す、○帝国学士院より来状、○高楠順次郎、丸善店員来訪す、○金井義雄より書状と鬼神論とを送来る、○夜、哲学会に赴く、○「勅語教本」二百部の奥附を晚成処に送る、○三上義夫より書状と論文とを送来る、○「論文」を草す、
- 九日、午前、「論文」を草す、○足立文太郎、曾根松太郎、金井義雄より来状、○講義に高等師範に赴く、○不在中浦谷熊吉来訪す、○午后、Prof. Laurence より来状、○午后、「婦人画報」社より速記者来る、乃ち談話を速記せしむ、○市村瓊次郎より来状、○論文を草し了りて之を日清印刷会社に送る、○帝国学士院より来状、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、○平塚唯鳩より来状、
- 十日、午前、長政公御贈位報告祭に黒田邸に赴く、○午后、二時半頃帰宅、○岸田繁次郎来談す、○大江文城より書状と「程朱哲学史論」とを送来る、○弘道会の速記を訂正す、○夜、速記を訂正

す、○吉田豊及び足立文太郎より来状、

十一日、午前、講義に大学に赴く、○速記を訂正して之を弘道会の

使者に付与す、○午后、武内紫明来る、乃ち談話を筆記せしむ、

○委員会に帝国学士院に赴く、○不在中浦谷熊吉来訪す、○林源

十郎より来状、○夜、勉強、○英文序文を修正す、(頁下部に「我

維新後の如し▽断髪、陽曆、財政窮乏」の新聞記事切抜貼付)

十二日、午前、晴天、加藤駒二より来状、○石川景藏来る、乃ち談

話を筆記せしむ、○加藤駒二、浦谷熊吉、石川貞次郎来訪す、○

磯江潤より反物を送来る、○午后、石川景藏より速記を送来る、

○村上静人、川島平五郎、来訪す、○小谷重より来状、○速記を

訂正す、○夜、帝国学士院に赴く、○筑前学友会より来状、

十三日、午前、学習院に赴く、○午后、文科大学の教授会に赴く、

○英文序文を丸善に送る、○「東亜の光」口絵解題を活版所に送

る、○阿部宗孝より来状、○夜、速記を訂正して之を石川松溪に

送る、○「教界春秋」を草す、○郵便局より来状、

十四日、午前、佃速記所より速記を送来る、○Laurenceを大学に

訪ふ、○上杉慎吉より「帝国憲法講義」を送来る、○速記を訂正

す、○不在中中村由次郎来訪す、○午后、講義に大学に赴く、○

九州医科学生湯澤謹次、大学に来訪す、○岡田恒輔、「悲哀の情

緒の研究」を携来る、○速記を訂正す、○文部省より教科書類

を送来る、○夜、速記を訂正す、○「教界春秋」を草す、○帝

国学士院より来状、○「死生の問題に就いて」哲学雑誌に出づ、

○「家族主義と個人主義」丁酉倫理に出づ、○此日、Harper H.

Cotes 来訪す、○此頃、益之進、耳疾を患ふ、

十五日、午前、岸田繁次郎、浦谷熊吉、深作安文、秋山悟庵来訪す、

○午后、中村由次郎来訪す、○「教界春秋」を草して之を印刷所

に送る、○丸善より洋酒三壺を送来る、○夜、伊藤吉之助来訪す、

○丸善より校正来る、○校正を丸善に送る、○速記を訂正す、○

此日、速記を婦人画報社の使者に付与す、○益之進稍々軽快、

十六日、午前、書状を松本源太郎に送る、○富山房より印税を送

来る、○速記を訂正す、○成美堂より漬物壺樽を送来る、○

「倫理と哲学」帝国教育に出づ、○午后、速記を訂正す、○千代

を学習院に遣はす、○文科大学より使者来る、○村澤喜代人、御

礼の為に来る、○石川県知事李家隆介より来状、○英爾を鴻ノ池

銀行に遣はす、○教科書会より書類来る、○夜、武内紫明来訪す、

乃ち談話を筆記せしむ、○文部省及び金港堂より来状、○丸善よ

り校正済の分を送来る、○速記を訂正す、

十七日、午前、松浦一、岩橋遵成、中島泰藏、浦谷熊吉来訪す、○

伊澤修二より鶏卵箱と半襟とを送来る、○松浦一より来状、○速

記を訂正す、○午后、書状を加藤駒二及び吉富實に送る、○丸善

より校正来る、○校正を丸善に送る、○速記を訂正す、○丁酉倫

理会に赴く、○夜、八時頃帰宅、○不在中小藤文次郎来訪す、○

岸田繁次郎より来状、○社会政策学会より来状、

十八日、午前、中島善太郎より来状、○講義に大学に赴く、年内の

講義は此日を以て結了す、○Laurenceを大学に訪ふ、○午后、

浦谷熊吉、九鬼周造、姉崎正治来訪す、○村上静人来る、乃ち談

話を速記せしむ、○夜、文科大学より来状、○速記を訂正す、○

此日、英爾を東海銀行に遣はす、

十九日、午前、川島平五郎より来状、○哲学会の速記を訂正す、○

書状を小柳司氣太に送る、○午后、原稿を宮本和吉に送る、○

Laurenceより来状、○弘道館より菓子箱を送来る、○丸善より校正来る、○校正を丸善に送る、○濱尾総長を大学に訪ふ、○夜、学生の試験答案を読む、○此日、平出鏗二郎逝く、享年四十三、二十日、午前、学習院女学部に赴く、○午后、文科大学の教授会上山御殿に赴く、○石川県より「国民道徳に関する講演」三部を送来る、○夜、書状を文科大学に送る、○帝国学士院の報告案を訂正す、○此日、井上波野、男児を産す、

廿一日、午前、高等師範、加藤駒二、教育実成会、等より来状、○村岡素一郎より「大公報」を送来る、○平出鏗二郎の訃報至る、○書状を加藤駒二、高橋作衛に送る、○松浦一、岸田繁次郎来訪す、○加藤玄智及び有馬祐政より来状、○岩橋遵成より蜜柑を送来る、○藤谷自昇、東亜協会々員となる、○午后、大岡忠時の「東海道徳標準論」三冊を検閲す、○「鬼神論」を金井義雄に返却し、且つ礼状を送る、○坂巻登介来訪す、○「孫子諺義」を読む、○運動に小日向に赴く、○マニユフハクチュラス生命保険会社より来状、○夜、孫子を読む、○福岡県教育会長由布惟義より来状、○書状を福来友吉に送る、○伊藤吉之助来訪す、○幸徳秋水の遺書を読む、○帝国学士院より来状、○此日、吉田雪子来談す、

廿二日、午前、山岸光宣、浦谷熊吉、辻本卯藏、櫛引某来訪す、○市澤弥一來る、乃ち談話を筆記せしむ、○加藤詳三郎来る、乃ち保険料を支払ふ、○浅倉屋より孫子書類を送来る、○午后、高橋里美来談す、○大日本統藏經二套を郵便局より受取る、○齋藤省三及び坂本嘉治馬より各々ビール壺打を送来る、○樋口秀雄の論文を審査す、○文科大学の使者来る、乃ち之に論文二篇を付与す、○日清戦役に関する有賀長雄の著書を高橋作衛に返却す、○文明

協会より鴨二羽を送来る、○夜、教科書会より来状、○古澤滋逝く、廿三日、午前、七時過出發、赴足利、○八、三○小柳司氣太と共に浅草出發、車中辻豊平と会見す、○十一時足利着、川島平五郎、木川忠一郎、小沼茂助、長安郎、辻甲造、上岡長四郎等と会見す、(頁下部に「足利電話(昨日)」「足利学校遺蹟」積典式と講演会」の新聞記事貼付)○午后、八時頃、帰宅、○博文館より「国民道徳叢書」二編奥附二千箇を送来る、○福来友吉及びコートより来状、○速記者より速記を送来る、○不在中中島徳藏の使者来る、○浅倉屋より菓子箱、三省堂よりビール壺打、大江文城より鮎寿司を送来る、○辻豊平より絹風呂敷二枚を送る、○森良三郎、蜜柑箱を携来る、○此日、宮内省の招待状来る、

廿四日、午前、速記を訂正して之を中島徳藏宅に送る、○松浦一、加藤玄智来訪す、○齋藤精輔、「日本百科大辞典」第五巻を携来る、○同文館より文房具、村松喜太郎より蜜柑箱を送来る、○午后、深作安文、来訪す、○小野田亮正来る、乃ち談話を筆記せしむ、○鈴木貞太郎、鴨二羽を携来る、○英爾をして平出鏗次郎の葬式に会せしむ、○富山房出版のプラトン全集第五巻を木村鷹太郎より送来る、○三浦謹之助母堂の訃報来る、○岸田繁次郎より会計報告来る、○村木維夫より来状、○在智利サンシヤゴ井上円了より来状、○小柳司氣太より来状、○齋藤勝次郎来訪す、有故不遇、○姉崎宅より千葡萄を送来る、○育成会より鴨志羽を送来る、○村木維夫より菓子九重壺缶を送来る、○運動に小日向に赴く、○夜、書状を由布惟義及び帝国学士院等に送る、○「孫子諺義」を読む、

廿五日、午前、晴天、善隣同士会より来状、○雪山俊夫、宮井虎三郎、

東亜協会々員となる、○佐々木信綱よりビール半打、清水満之助より砂糖壺樽を送来る、○富尾木知佳妻、雉子二羽を携来る、○浦谷熊吉来談す、○「孫子諺義」の序を草す、○午后、黒川眞道、ハンケチ壺打と「日本歴史文庫」七冊を携え来る、○「孫子諺義」の序を作る、○丸善より摺替分を送来る、○浅倉屋より「孫子十家註」を送来る、○運動に小日向に赴く、○目黒書店より海苔を送来る、○夜、「孫子諺義」の序を作る、○北原種忠より来状、廿六日、午前、浦谷熊吉、深作安文、岸田繁次郎来談す、○芝田徹心、硯箱を携来る、○「東亜の光」(七の一)成る、是れを四聖号と称す、○午后、教科書会に文部省に赴く、○不在中吉田雪子、薙二塚を携来る、○元良勇次郎妻、川端の贈物を携来る、○帝国大学より辞令書を送来る、云く、賜本俸二級俸、(文部省)〔頁上部に「二級俸 = 220.00と書込み」〕○丸善より哲学字彙の見本と奥附とを送来る、○婦人画報社より御礼と海苔とを送来る、○浅倉屋より「論語集解義疏」を送来る、○夜、「哲学字彙」の奥附五百部の奥附を丸善に送る、○浦谷熊吉、岸田繁次郎来談す、○補永茂助、論文を携来る、○松本源太郎より来状、○此日、英爾をして三浦謹之助母の葬式に会せしむ、○シヤツ壺揃を井上精一に送る、○今福忍より状袋及び状紙を送来る、

廿七日、午前、「孫子諺義」の序を修正す、○六盟館より織物を、岩田僊太郎より真綿を送来る、○平塚唯鳩、御礼の為に来る、○午后、英爾を東海銀行に遣はす、○弘道館より使者来る、○宮井虎三郎、手塚光貴、尾上紫舟妻、姉崎正治妻来訪す、○書状を福来友吉及び岸田繁次郎に送る、○井上又藏の来状を文成社に送る、○運動に本郷に出で、「国典十講」を求めて帰る、○大倉書店及

び博文館より各々ビール壺打を送来る、○同文館より「哲学大辞書」第六冊を送来る、○夜、飯島魁祝賀報告書類来る、○此日、富田順吉より菓子二缶を送来る、○此日、帝國議會開会、

廿八日、午前、丸善より来状、○計見東山来談す、○文学社より海苔、図書会社より鯉節参円及び磯辺弥一郎より海苔を送来る、○国書刊行会より「黒川眞頼全集」(第六)及び「史籍雜纂」(第三)を送来る、○菓子永地、浦谷、岸田、村松に送る、○午后、古川黄一來る、乃ち「孫子諺義」の序を付与す、○村上静人、談話筆記を携来る、○文部省図書局より書類来る、○前川文栄閣より砂糖壺箱、成美より山鳥一羽、箱壺筒、笹川より乾葡萄を送来る、○縫子、春枝及び高子と三越及び白木屋に赴く、○運動に神田に出で古本六種を求めて還る、○夜、年始状数十枚を発送す、○同文館の筆記を訂正す、

廿九日、午前、同文館の筆記を訂正す、○浦谷熊吉来訪す、○菓子姉崎宅、海苔を吉田宅に遣はす、○餅搗をなす、○午后、岸田繁次郎来訪す、「東亜の光」四千部一日にして盡く売切れたるが、為なり、○英爾を遣はして菓子を佐々木信綱に、乾葡萄を齋藤省三及び齋藤基次郎に送る、○運動に小日向に出づ、○不在中小林義則の使者来る、○訂正筆記を同文館の使者に付与す、○阿部徳三郎、東亜協会々員となる、○夜、書状と論文とを足立文太郎及び平塚唯鳩に送る、○在ライプチヒ市桑田芳藏より来状、○青木昌吉より来状、○鶴原定吉より「望東尼歌文集」を送来る、〔頁下部に「北京特電 国民議会上論」の新聞記事抜貼付〕

三十日、午前、由布惟義、北原種忠より来状、書状を大江文城及び大島義脩に送る、○森良三郎、和田雅夫来談す、○齋藤基次郎よ

りカステーラ大箱を送来る、○「国民道徳叢書」二編成る、○「新編修身」二百二捨五部の奥附を金港堂に付与す、○午后、有馬祐政より校正来る、乃ち之を博文館に送る、○川島平五郎より来状、○書状を小柳司氣太に送る、○英爾を三菱銀行に遣はす、○植田弥吉より鯉節を送来る、○紀平正美より鴨壺羽送来る、○縫子、伊沢千世子を訪ふ、○夜、東亜協会々員勸誘書を小林嘉平治、坂巻登介、新田徳、英秀瑛、今村新吉、西川憲英、松平乗承、松本眞弦、岡部為吉、大峽秀榮、脇村民次郎、上岡市太郎、加藤政司郎、森茂、森川智徳、東新、柴山槐郎に送る、○伊藤吉之助来訪す、○此日、菓子を甘木に、菓子を中洲に送る、

三十一日、午前、有馬祐政の使者来る、○森良三郎来る、○菓子と硯箱とを井上成美に送る、○海苔を川端に送る、○文成社より砂糖と報酬とを送来る、○田中義能より砂糖壺樽を送来る、○英爾を大病院に遣はす、○午后、加藤駒二よりビール壺打を送来る、○浦谷熊吉来談す、○有馬祐政より使者来る、○博文館より印税を送来る、○蛸瀬彦藏よりシヤツ壺揃を送来る、○河野省三、東亜協会々員となる、○平塚唯鳩より来状、○運動に大塚及び小日向方面に出づ、○夜、岸田繁次郎、伊藤吉之助来訪す、○東林寺の住職梅田隆全に寄附金貳拾円を送る、○茲に歳末に際し、過去一年間の事を瞥見するに、購入書籍八拾六部、○寄送書類総計百八拾六部、○教科書類の検印は、「中学修身」壹万九千九百五十、「女子修身」貳万〇百九十、「農業修身」六百、「師範修身」三百七十、「倫理教科書」二百、合計四万三千三百十部、(以上金港堂) ○文学社の方は「実業修身」二千、「中学修身」六千五百五拾七、○六盟館の分は「実業修身」

五千四百九十、○晩成処の分は、「勅語教本」一千、「師範修身」三百九十九、合計壹万五千三百五十六、金港堂の分と合すれば、五万六千六百六十六部(以上教科書) ○其他

古学哲学……………一五〇
朱子哲学……………一五〇
倫理教育……………二〇〇
教育と修養……………二〇〇
学生宝鑑……………二〇〇
釈迦牟尼伝……………一〇〇〇
釈迦牟尼小伝……………一〇〇〇
武士道叢書……………一〇〇〇
国民道徳叢書……………四〇〇〇
哲学字彙……………五〇〇
合計……………八四〇〇
総発行部数……………六五〇六〇
年末到来物如左

砂糖壺樽	田中義能	洋酒三壺	丸善
漬物壺樽	成美堂	鶏卵と半襟	伊澤
ビール壺打	齋藤省三	ビール壺打	坂本嘉治馬
鴨二羽	文明協会	砂糖壺樽	文成社
ビール壺打	三省堂	菓子	浅倉屋
鮎寿司	大江文城	絹風呂敷	辻豊平
カステーラ	齋藤基次郎	蜜柑箱	村松
蜜柑箱	森良三郎	鴨壺羽	育成会
鴨壺羽	紀平正美	鴨二羽	鈴木大拙

砂糖壺樽	清水満之助	ビール半打	佐々木信綱
乾葡萄	姉崎	雉子二羽	富尾木
乾葡萄	笹川	鯉節	植田弥吉
鯉節	図書会社	菓子	弘道館
海苔	目黒書店	硯箱	芝田徹心
菓子	村木維夫	菓子二缶	中洲
山鳥一ツ箱一ツ	成美	ビール壺打	博文館
薙二塚	吉田熊次	海苔	婦人画報社
状袋ト状紙	今福忍	椎ノ実	川端
砂糖壺箱	文栄閣	文房具	同文館
真綿	岩田僊太郎	ビール壺打	大倉書店
海苔	磯辺弥一郎	ビール半打	尾上八郎
ビール壺打	加藤駒二	海苔	文学社
織物	六盟館	シヤツ	蛎瀬彦藏
ハンケチ壺打	黒川真道	ビール半打	林平次郎
真綿	深作安文	漬物	岸田繁次郎
蜜柑壺箱	岩橋遵成	蜜柑壺箱	勝田吉次郎

(むらかみ こそえ 元東京大学文書館)
 (もりもと さちこ 東京大学文書館)